

バッハの神学文庫

連続講座

— マタイ受難曲 —

講師：丸山桂介

第1回：2016年5月28日(土)

第2回：2016年9月17日(土)

第3回：2017年1月28日(土)

※第2回の日程が当初の予定から変更になっております。

時間：13:00-16:00

会場：東京音楽大学付属図書館 5階

聴講無料

講義概要

バッハの『マタイ受難曲』はライプツィヒの教会で執り行われた聖金曜日の典礼で演奏されるべく纏められた。この歴史的事実には一片の疑義を差し挟む余地とて存在しない。

だが、歴史的事実に二面の存することにもまた、何等の疑いを差し挟む余地とて在りはしない。

教会における典礼の事実に対して、いまひとつの事実は即ちバッハその人の思索の内に求められる。

無論バッハが、キリスト教会に反する事柄をこの作品で述べようとしたわけではあるまい。とは言えその事実を立てて眺めた場合に、浮かび上がるひとつの疑問にどのように答えるべきなのか — 今日に遺されたバッハ自筆の『マタイ受難曲』と、今日に一般に演奏されている作品との間に存する異同。或いは『ヨハネ受難曲』と曲の一部が交換された事柄に関して、それは単に交換された事柄なのか、或いは交換され得る事柄なのか。

我々は『マタイ受難曲』について、同時にバッハにとっての「作品」の意味について、改めて問わねばならないであろう。

記 丸山

講師紹介

1943年、東京生まれ。日本大学芸術学部音楽科卒(専攻・楽理)。ハンブルク(1982年)、シュトゥットガルト/ライプツィヒ(1986/87年)でバッハ、並びにベートーヴェン研究。元東京音楽大学講師。

著書に『バッハと教会』(音楽之友社)、『プロメテウスのシンフォニー — 精神史としてのベートーヴェン』、『ウィーンのモーツァルト』、『バッハ ロゴスの響き』、『神こそわが王 — 精神史としてのバッハ』、『バッハ「聖なるもの」の創造』(以上、春秋社)などがある。

講座は電話かインターネットからの事前申し込みになります。

連続講座のため、原則全ての回に参加出来る方を優先して募集します。

来年度以降も継続して行う予定です。

問い合わせ・申込先：東京音楽大学付属図書館

03 (3982) 2120

<http://tokyo-ondai-lib.jp/collection/bacharchive/>

